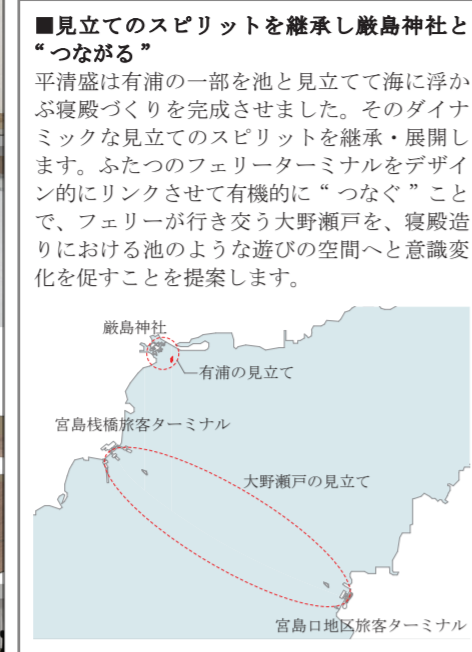


未来の宮島をつくる

新しい厳島港宮島口地区旅客ターミナルには、これまでの宮島観光を引き継ぎながら「宮島ブランド」のさらなる強化を図るという使命があります。私たちは、その使命を、宮島/宮島口/地域/未来を“つなげる”ための様々な工夫の丁寧な積み上げによって具現化します。



ア) 世界遺産・宮島の玄関口にふさわしい「宮島とのつながり」を意識した景観形成について



■見立てのスピリットを継承し厳島神社と“つながる”
 平清盛は有浦の一部を池と見立てて海に浮かぶ寝殿づくりを完成させました。そのダイナミックな見立てのスピリットを継承・展開します。ふたつのフェリーターミナルをデザイン的にリンクさせて有機的に“つなぐ”ことで、フェリーが行き交う大野瀬戸を、寝殿造りにおける池のような遊びの空間へと意識変化を促すことを提案します。



イ) 人と人を“つなぐ”「新たな賑わいの創出」

■宮島口と宮島を“つなぐ”
 ふたつのフェリーターミナル、棧橋、広電宮島口駅の屋根や庇の勾配や素材に関係性をもたせ、エリア全体で一体感をつくることを提案します。また、沿道の住民や地区内事業者が取り入れやすい屋根や庇を景観誘導の主要な要素とすることで、多くの主体が新しい宮島口をつくることに参加できるようになります。



■海辺の回廊軸、大しゃもじ広場(緑地)と“つながる”
 「海辺の回廊軸」は新フェリーターミナル(広電ガーデン)にある中央の大しゃもじストリートへと“つながり”、そのまま大しゃもじ広場(緑地)へと“つながり”ていきます。それらの要素すべてを一体的にデザインすることで、地域全体の回遊性を向上させます。



■透明で開かれた施設で人と人を“つなぐ”
 新フェリーターミナルは、おおらかな屋根の下にプログラムごとにまとめた小さなスペースを散在させた入れ子形式とします。小さなスペースはおおらかな屋根によって直射日光が遮られるのでガラスの反射がなく、中での活動がよく見えるようになります。観光情報機能や総合案内所、物販機能などの存在を大いにアピールすることが可能になります。

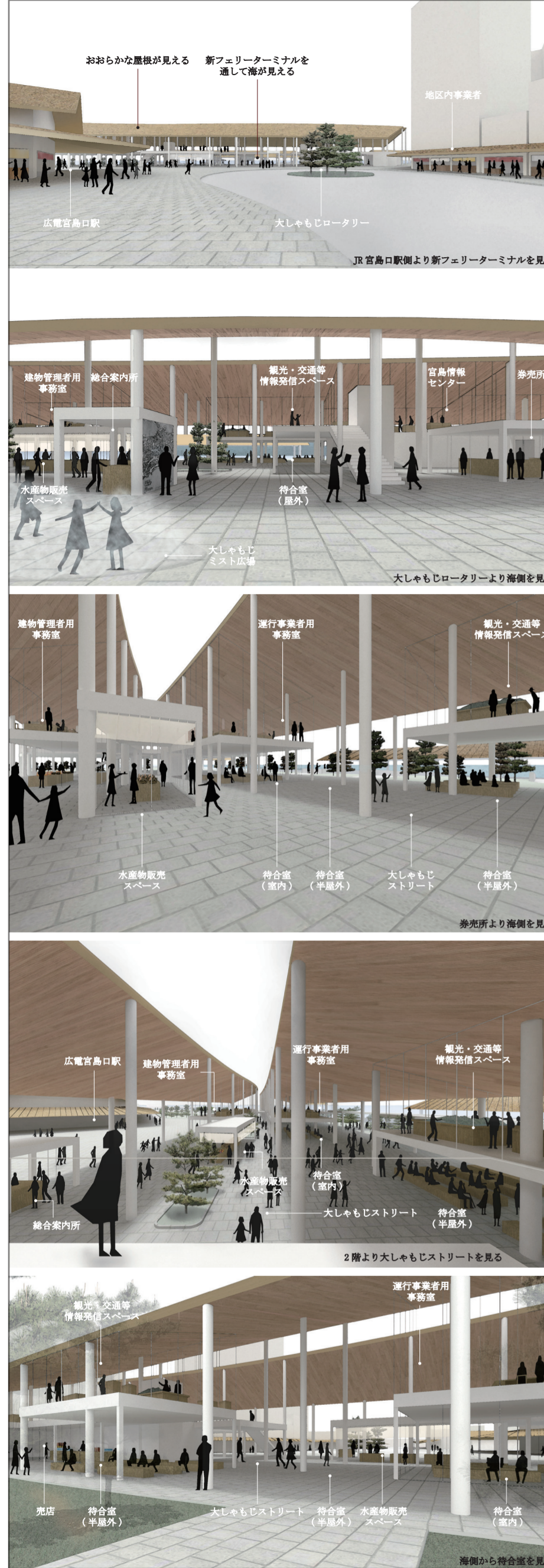
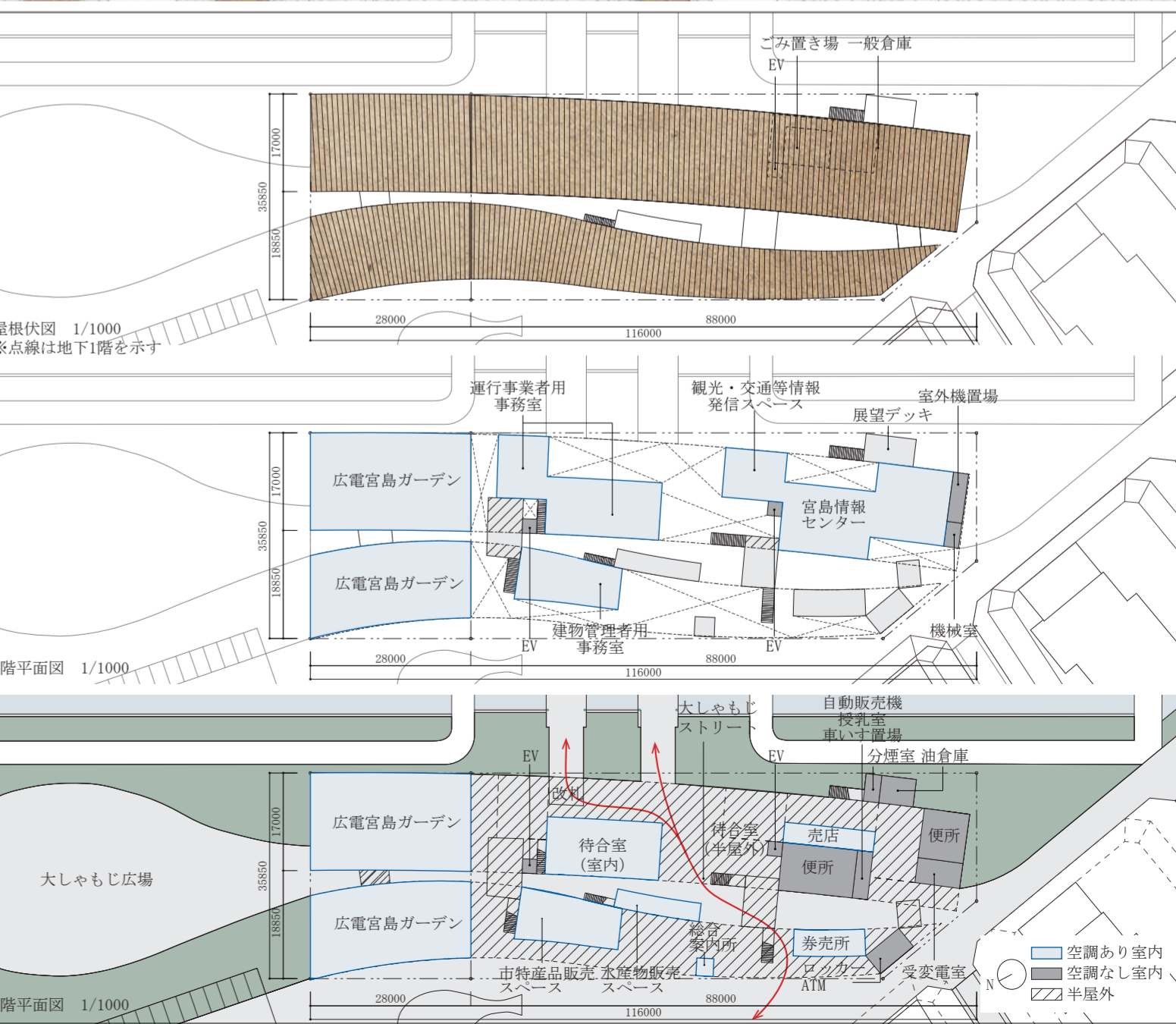
ウ) 未来に渡ってまちの活力を“つないでいく”ための「観光と生活の共存」

■入れ子構造でまちと“つながる”
 ハコモの建築は室内をまちから切り離してしまいがちですが、新フェリーターミナルはおおらかな屋根による入れ子形式の建築なので多様なプログラムがまちへと“つながり”ます。それにより、周辺エリアへの人の流れをつくり、地域の集客や経済効果を高めていきます。

■フレキシブルな建築で未来へ“つないでいく”
 小さなボックスは独立性が高く将来的なプログラムの変化にも自在に対応が可能です。フレキシビリティの確保によってさまざまな未来像へと“つながる”建築をつくります。

■環境性能の高い入れ子構造で未来へ“つないでいく”
 入れ子形式を生かして室内の日射の熱取得をできるかぎり抑えます。また、閑散期に照準をあわせて空調空間を小さくします。それによりランニングコストを抑え、サステナブルで未来へと“つながる”建築をつくります。

■フレキシブルな建築で未来へ“つないでいく”
 小さなボックスは独立性が高く将来的なプログラムの変化にも自在に対応が可能です。フレキシビリティの確保によってさまざまな未来像へと“つながる”建築をつくります。



種別	室名	面積 (㎡)				合計	
		地下	1階	2階			
基本機能	待合室		200	86		1080	
	便所		172	172		177	
	券売所・改札		57	29		86	
	建物管理用事務室 / 運行事業用事務室				432	432	
	総合案内所		10			10	
	ロッカー室 / 自販機 / 授乳室 / 分煙室 / 車いす置場 / ATM			66		66	
	一般倉庫 / こみ置場等 / 機械室 / 変電室 / 室外機置場	129	35		36	200	
	売店		30			30	
	広場		57			57	
	交通部分		43	64		806	
付加機能	観光情報機能		197			450	
	物販機能		197			197	
合計		172	521	1862	882	3591	
	室内	54.1%	1943 ㎡	1403 ㎡	1403 ㎡	39.1%	空調
	半屋外	45.9%	1648 ㎡	1648 ㎡	2188 ㎡	60.9%	空調なし